

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

— 『見方』が『味方』に—

NO. 100



9月になりました。暑い日は続きますが、暦通りに秋のイベントはやってきます。子ども達は、その流れに乗りながら、滑るように月日を過ごしていきます。“今年の運動会は、みんなと一緒にできるかなあ”“当日またビックリしちゃうかな”“練習に参加できるかなあ”“遠足、みんなと一緒に歩けるかなあ…”等、大人の期待と不安も入り混じる場面が何度かやってきます。主役の子どもが、どんな過ごし方をしているかがいちばん大事ですが、まわりで見ている者たちの思いや臨み方も大事ですよ。

あんずの児童のマラソン時間、曲に合わせて歩いている子がいます。今日だけ見た人は、“走らない子”と捉えるでしょう。でも、尻込みをして動かなかったあの時期を知っている人にとっては、“一緒に歩くようになったんだね”“次は走り出すのが楽しみだね”と『見方』によって『見え方』は違いポジティブです。声かけも、「もっと走れ！」になるのか、「いいぞいいぞ、その調子だよ！」になるのか。何気なく通り過ぎてしまう場面かもしれませんが、声をかけられる子どもにすれば、大違いです。“足りない”と背中を押し出されるのと、肯定的に応援されるのとでは大違いです。

じっとしているのが苦手な子がいます。あてがわれた場面で座ってられないことは多いです。でもそれを、「好きな読み聞かせの場面しか座っていない」と見るか、「好きな読み聞かせの時間は興味を持って座ってられる」と見るのかで、“できる子”なのか“できない子”なのか、その子の見え方は全く違ってきます。そして、子どもはその空気をしっかりと感じています。その見方に沿った大人の関わり方が、子どものその場への臨み方につながっていきます。もちろん、「もっとこうなってほしい」という願いは、誰もが同じです。

あんずの放デイの一場面、一人ずつ発表をする機会があります。その子は、言葉少なく、間をあけながら時間をかけて話します。その姿だけ見た人には、“上手に話せない子”と見えるかもしれませんが、でも、思いを言葉で表せなかった時期を知っている人にとっては、“思いを話せるようになった子”です。『見方』によって『見え方』は変わります。もちろん、関わり方も変わりますね。時間が過ぎるのを、時計を見い見い待つのか、それとも「うんうん」とうなづきながら、急かさず次の言葉を微笑みながら待つのか。同じ場面でも同じ姿でも、待たれているその子の気持ちは真逆ですよ。

これから秋の行事がやってきます。まずは、日々の練習です。“ここができない”“ここが難しい”という『見方』から入ると、練習を重ねていく中で、「ここまでしかできていない」「もう少し頑張らないとむずかしい」という『見え方』になってしまいます。でも、“これは好きそう”“これなら一緒に楽しめそう”という『見方』から入れば、「ここまで参加できているね」「みんなと一緒に張り切っているね」という『見え方』になると思います。それは妥協でも諦めでもありません。育ちや成果を下から見上げていけば、大いなる積み重ねです。見えているのは同じ姿です。

“これしかない”と見るのか、“これだけある”と見るのか、誰もが直面することですが、前向きな視点になれるのは、誰かにOKを出してもらえた時ですよ。 「見方」が「見え方」を変え、関わりに活かされた時、すべてが「味方」になるのかもしれない。(R6. 9) K

